

家畜のエサ用の稲を栽培

飼料用稲で飼料自給率アップ!



・みどり と パパ と ママ

水田地帯の一角に、周りの稲より背が高く、たくさん実がついた稲が植えられているところがありますが、皆さんは見たことがあるでしょうか？

飼料の自給率は25%

この稲は私たちがご飯として食べるための稲ではなく、家畜のエサ（飼料）として利用する飼料用稲といえます。日本の食料自給率（食べ物などのくらい日本で作られているかの割合）は全体で40%ですが、飼料は輸入に頼る割合が高いため、飼料の自給率はさらに低く、25%となっています。最近、輸入飼料の値段が高くなったこともあ

日本は食料自給率が低いって話覚えてるかな？

うん 飼料の自給率はもっと低いんだよね

自給率を上げないといけないんじゃない？

そう それで最近注目されているのが飼料用稲なんだ

みんなが食べるごはんにする稲じゃなくて 家畜のエサ用の稲だよ

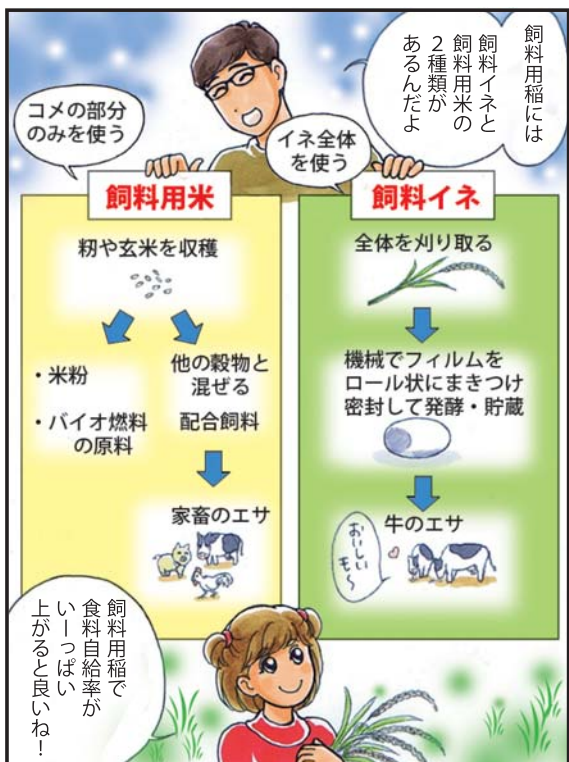
減反で余った水田を利用して栽培できるから 田んぼの優れた機能はそのまま

洪水や土砂崩れを防いだり

食料自給率アップに貢献してくれそうなんだ

こんなに低い！

食料自給率 40%
飼料自給率 25%



り、国産飼料の増産が望まれています。特に飼料用稲は、お米の生産調整（減反）で余った水田にすぐ作付けできるため、洪水や土砂崩れを防ぐなどの田んぼの持ついろいろな機能を維持し、食料自給率を向上させる新たな飼料作物として注目されています。

飼料用稲には、茎や葉を含めた稲株全体を利用する飼料イネと、米の部分のみを利用する飼料用米の2種類あります。

飼料イネは、茎葉を含めた全体を刈り取って専用の機械でロール状に巻き、フィルムを巻きつけて密封した後、発酵させて貯蔵します。発酵してできた飼料は、外国からたぐさん輸入されている牧草のチモシーと同じくらいの栄養価があり、牛も好んで食べます。飼料用米は、収穫したのみや玄米を他の穀物と混ぜた配合飼料としてニワトリ、豚、牛に与えます。

バイオ燃料の原料にも

飼料用米はたくさんとれるので、飼料以外にも米粉やバイオ燃料の原料としての利用も始められています。現在、飼料イネは6000ヘクタール、飼料用米は1350ヘクタール栽培されており、今後も面積が拡大する方向にあります。

皆さんも身近に飼料用稲を目にする機会が増えてくると思います。